

まちの元気人

「NHK学園」短歌講座で
講師を務める



山中 律雄さん
(院内/48歳)

曹洞宗神林寺(院内)の住職を務めながら歌人としても活躍する山中さん。平成16年には、プロ歌人の団体「現代歌人協会」の会員にも選ばれています。
また、今年からは「NHK学園」の短歌講座の講師としても活躍中です。

現代歌人協会は、日本歌壇の第一線で活躍するプロ歌人の集団として昭和31年に発足したものです。歌壇で一定の実績を持つ人で構成され、地方歌壇のみならず、中央歌壇においても相当の活躍が認められなければ会員になることができません。協会設立から50年の歴史の中でも、これまで秋田県では私を含めて3人しかいないと聞いています。
これまで、2冊の歌集を刊行していますが、第2集の『刻ゆるやかに』は平成12年度の秋田県芸術選奨、日本歌人クラブ東北地域プロック優秀歌集賞を受賞することができました。

こうしたことが、今回の「NHK学園」の講師の依頼にも繋がったのではないのでしょうか。「NHK学園」からは月に3回、毎回20〜30人分の歌が送られてきます。皆さん3首ずつ送って来られますから、すべてを添削し、アドバイスを書き添えるのは大変なことですが、自分の勉強にもなりますし、これだけ多くの短歌愛好家がいるのは嬉しいことです。

若い人にも短歌の魅力を知ってほしい

私自身が短歌に入り込むようになったのは学生時代です。たまたま知人に誘われ、勉強を始めました。

私が歌の対象にしているのは何気ない日常生活です。ただ見たもの、聞いたものを詠うのではなく、その時々々の心に去来するもの、それが発する光をとらえていきたいし、新しい発見をする喜びが歌の中にはあります。

現在は、仁賀保短歌会の会長も務めています。現在は、「青々の会」という会もでき、若い人を中心に10数名が集まって、文学としての短歌を勉強しています。短歌をやってみたいと思う人がいれば、気軽にのぞいていただきたいですね。

時化あらし海を休める漁師らに 浜のいで湯はにぎはひてるん

(歌意)
時化で海が荒れ、漁に出られない漁師たちで、普段は静かな浜場の温泉は賑わっているんだらう。

ぐんまのふるさと

地区紹介

院内地区 (仁賀保地域)

院内/小国/馬場/田爪
石田/上小国/杉山/横根



仁賀保高原のふもとの田園地帯に広がる院内地区は、明治11年(1879)から昭和40年(1965)ころまでの長期間、院内から桂坂までを中心に石油発掘のやぐらが立ち、昼夜をとわず掘削採油が行われ、「不夜城」と呼ばれるほどにぎわっていた地区です。

史跡発掘 山根館跡地



山根館跡地は、市内の遺跡の中で、規模や遺存度(状態の良さ)が県内でも特に優れているといわれています。

山根館は、由利地方に勢力を持っていた12人の豪族の1人「仁賀保氏」が135年間にわたって居住した中世の山城で

遺構調査が昭和50年〜54年、平成5年〜8年の計9年において実施され、200以上の礎石(柱の下に敷く石)が発掘され建物の形状が明らかになりました。

年中行事 七高神社例大祭・正月年占行事

七高神社の例大祭は、以前は3月17日と定められていましたが、現在は4月29日に行われております。



昔は、苗代づくりの前に行われていたことから山の神、すなわち鳥海山の神を「田の神」として迎える稲作農耕祭りの意味合いが強かったといわれています。



ひまわり保育園・5才
佐藤 龍珠くん

ぎゅうにゅうパックやガムテープのしんをつかって、ひこうきをつくったよ！
ぼくもいつかこんなひこうきにのって、いろんなところへ行ってみたいな！！



ひまわり幼稚園・5才
鈴木 純女ちゃん

トイレトペーパーのしんをつかって、たなばたかざりをつくりました。
おりひめさまとひこぼしさま、じょうずにできたでしょ！！

チビッコ美術館 じょうずにできました！



七高神社の権現様村内巡行

正月年占いは、正月神事として12月17日から約1ヶ月間にわたり、厳粛に執り行われます。
御門松の神事における門松立と門松引は、神通いといわれ、



御輿の先方に立つ
ミサキ神サルタヒコ



白装束の氏子が御輿を担ぎ
御渡が始まる